

アートマイルプロジェクト評価シート

■基本情報について教えてください。

学校名 [金沢大学教育学部附属小学校] 担当教諭 [八崎 和美]			
児童生徒の学年・参加人数 (複数学年であれば学年別に): [5年37 名] [年 名] [年 名]			
実施期間: 2007年6月 ~2008年 3月			
交流: 有 (国名 [台湾] 学校名 [桃源小学校] 学年 [6] 担当教諭 [翁嘉穗 (Weng, Chia-Sui) Peggy])			
実施教科・時数 (関連させたものをすべて)	教科	単元名	時数
	総合		25
	国語	テレビ番組を作ろう	10
	図工		

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	平和、互いの文化
絵に込めたメッセージ	互いの国で大事にしているものをお互いに描き、お互いを分かり合う 平和な世界になるように真ん中に笑っている地球を描いた

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
導入	6月	TV会議で自己紹介 シャボン玉の英語の歌 日本に関するクイズなど	1 回目は言語だけの紹介だったので意味がよく伝わらなかった。自信はさがった。その後 3 回ほどのTV会議は、伝え方の工夫をしたのでとても盛り上がった。伝わる楽しさを味わうことができた。	総合
情報収集	7月	金沢のこと、学校のことをwebにまとめ、TV会議で意見を意見をもらった	1 グループずつ日本からTV会議で説明したが、webについては表現方法 (色や構図など) のみのコメントしかもらえず、内容的な質問までもらえなかった	総合
テーマ検討	9月 ~ 11月	平和、環境について 学校紹介、地域紹介のビデオを作成することも同時並行的に行う。 平和についてのイメージを各自が 1 枚ずつ掲示板に載せる その後クラスで相談し、中心に描く絵	絵の案を 1 人 1 枚描いたが数が多すぎて、コメントをもらうことができなかった。 台湾側の、積極性が今ひとつで日本側は、毎回TV会議後に反省会を持ち、うまくTV会議を進行させるために全員一致で取り組んだ。	総合 国語

		を3枚にしぼり構図を提案し、台湾側を選んでもらう。 日本の情報、台湾の写真情報を掲示板に載せてもらい、互いの絵の参考に する。	日本の国の様子を掲示板にどんどん載せて いった。 台湾からもおどりなど多くの写真が掲示板 にアップされた	
制作	1月 2月	台湾の様子を日本が、日本の様子を台湾が描くようにした。日本側は先生が台湾に行ってきた様子をビデオを見せながら話したので、台湾の印象の絵がブナン族の踊りやたくさん母動物が居る山の絵が中心になった	絵を描くパーツごとにフォトショップで取り込み、配置はパーツの大きさを自由に変えながら考えたので、構図としては考えやすかった	総合
鑑賞	5月	相手の絵は日本一般をイメージするシンボリックな物が多かった	日本がたくさん色を塗り重ねたのに対して、台湾は混ぜずに単色の色を使った絵であった。	総合

■学習目標と成果はどうでしょうか？（順位は重視したもののから順に1～5まで記入してください。順位のないものも記入してください）

（5：とても身についた 4：身についた 3：どちらともいえない 2：あまり身につかなかった 1：まったく関連がなかった）

順位	つけたい力・指導目標	先生の手応え	そう感じた場面・理由
3	コミュニケーション・スキル	5・④・3・2・ 1	何度もTV会議を行い、毎回反省を踏まえておこなったので、司会や、進行など切り替えの進行が早くなっていった
	情報活用能力（収集・発信）	5・④・3・2・ 1	わからなく発信するために係り分担し取り組めた。
1	人間関係をつくる（交流相手・学級内）	⑤・4・3・2・1	クラス内ではループリックを作成することで全員でまとまってTV会議に取り組むという一体感が高まった
2	協同作業をする力（役割・段取り）	5・④・3・2・ 1	係を決め進行をスムーズにすることができた。絵の完成までの段取りを子ども達自身が見通しを持ってできた
	異文化の理解	5・④・3・2・ 1	相手の民族衣装や踊りを中心に描くことができたから
	自文化の理解・自分を見つめる	5・④・3・2・ 1	地域の様子を理解してもらうためにwebページを作成できたから
	表現力	5・④・3・2・ 1	絵を実際に描くのは下書きが難しかった。何度も試行錯誤を重ねてフォトショップを使うことで下書きが描きやすくなった

	学習を追究する意欲	5・④・3・2・ 1	相手の反応が弱い中、なんとかいい形でのTV会議にしようとずっと意欲を保ち、ゴールの絵までつなげることができた
	その他（具体的に記入）	5・4・3・2・1	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成果	課題
<p>相手がいれば、なんとかなる</p> <p>がちりやりたければそのような相手が必要であるが、相手は選べないので、相手の様子を見ながらこちらの学習を進めた。そのため相手の顔を思い浮かべて、A君に伝えたいからどうするという思いをもててよかった。</p> <p>克服すべき壁がいっぱいあったからクラスがまとまった。壁（自分がうまくしゃべれない、反応のタイムラグがある、反応がこない）の中に乗り越えられる物を可視化させることのできたので克服しようという意欲を持たせることができた。</p>	<p>今回はコーディネータ(清水)がいたからできた。向こうのスタンスはこちらでは変えることはできない。英語をしゃべることのできる人が中にはいる人必要性があった。</p> <p>しかし、終わってみると、コーディネータがいなくても先生が2人いればできそう気はしてきた。今は、何とかかなりそうな気がしている。</p> <p>TV 会議は。メールですることを伝えて、書いておいた文をチャットで打てば大丈夫。自分自身、外国の人と話すことがそんなに怖くなくなった</p>

■その他ご感想・アートマイルプロジェクトへの要望などありましたらどうぞ。

<p>国際交流は、相手との温度差があるので、相手を頼るよりも、自分たちでストーリーを描き、どのようなことを大事にすればいいかを考えて行くことが大事わかりました。ありがとうございました。提出が遅くなりすいませんでした。</p>
--